



OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱ ゾンタクラブ第34号(2012年9月)



巻頭言

トリノ世界大会に行ってきました

会長 河村 さと子



トリノの世界大会に出席し、各種ビジネスセッション、次期役員選挙、親睦パーティをつつがなくこなし、7月11日午前8時にトリノより帰途に着き、その日の午後便でフランクフルトより関空行のルフトハンザ便に乗りました。

そして、日本時間7月12日の午前8時前関空到着直前、機長よりいつものように着陸案内及び搭乗謝礼のアナウンスがありました。それは、あまりにもリラックスして何気ない自然な口調でなされたため、私はさらっと聞き流していました。暫く経って、ハッと気がついたのです。機長が自分の名を名乗ったのは、まぎれもなく女性の名前で、また当然ですが、その声は女性の声だったのです。しかも、私達ゾンシャン達が陣取っていたビジネスクラスのキャビン内のアテンダントは、ほとんど男性達だったのです。今、思い出しても何だか愉快的な気持ちになります。

アメリア・イアーハートの時代からほぼ100年、なんと、さりげなく女性が各ポジションで大黒柱として、当たり前の仕事をする時代になったことでしょう。それに伴う社会的責任を引き受けるか、それを回避して安穩として暮らすかは、今の時代を読むセンスと技量が私達に問われているのだと思わずにはいられません。



2012年1月 新年会

参加報告

河村 さと子



日時：2012年5月13日(日)

於：ANAクラウンプラザホテル神戸

大阪Ⅱゾンタクラブからは、河村さと子、牛田三千子、西村博子、幡山玲子、宮本典子の5名が参加しました。



10時30分からの開会式、その後、ビジネスセッションが行われ、エリア3・エリア4の活動報告と今後の予定、及びエリア費収支中間報告に引き続き、新クラブ紹介（ゴールデンZクラブも含む）、新入会員、及び新旧会長の紹介、そして、新旧エリアディレクターの引き継ぎがありました。

11時30分からは、前尼崎市長白井文氏の基調講演「今、改めて考える 女性のエンパワーメント」が行われました。

女性一人一人の行動で地域が変わり、地域が変われば社会が変わる。「LET US BEGIN」を合言葉に女性市長として、成長した経緯を話されました。

12時30分からは、田中潤子氏によるソプラノ独唱を鑑賞しながらの昼食会。

14時から、ワークショップ講演1。

- ・次期ガバナー三宅定子氏による「ゾンタローズデーについて」。

国連の国際婦人デーに直接提言できる団体として、国際ゾンタの地位は高い。

日本のゾンタクラブは、「3月18日ゾンタローズデー」をそのために最大限に活用することを国際提案した。

- ・次期OMC委員長豊田由起子氏による「2012年～2014年のOMC活動報告」。

26地区における今後の最大の目標は、新クラブの設立、会員増強の2本柱とし、2012年～2014年の間に全国47クラブで合計1100人の会員を目指す。

- ・地区会計大須賀はつ氏による「国際会費の支払方法について」のレクチャー。

コーヒブレイクに引き続き、15時20分からワークショップ講演2。

- ・LAA委員長三隅暁美氏によるシンポジウム「未来を創る女性リーダーの活躍の報告」。

2012年3月17日（土）東京ウィメンズプラザホールで内閣府、男女共同参画推進連携会議、国際ゾンタ26地区（日本）の3者で共同開催されたシンポジウムの内容報告（会議録冊子配布）。

- ・国際ゾンタ26地区2011東北大震災支援委員会委員長岡部文子氏による「2011東北大震災 私達はどのように動いたか」の報告。

16時20分より現26地区ガバナー上田トクエ氏により今回のエリアミーティングの講評が行われ、今後のゾンタクラブに於いてはチームワークが何よりも大切であるとエールを贈られた。①雁のようにVフォーメーションで行動すると、個人は71%の力で行動することが出来、②一人に対し2名がケアする機能を発揮し、③リーダーが疲弊した場合、最後尾に下がり、新しいリーダーを盛りたてる、そのようなシステムでゾンタは発展していきたいと締めくくった。

引き続き、次回エリアミーティング開催クラブの紹介があり、17時に閉会した。

基調講演

牛田 三千子



平成24年5月13日(日)、初の試みとなるエリア3・4の合同エリアミーティングが、ANA クラウンプラザホテルで開催され、ゾンシャン約270名が参集しました。開会式やビジネスセッションが順調に進んだあと、今年度の基調講演をお聴きしました。ご講演は前尼崎市長の白井文氏で、演題は「今、改めて考える女性のエンパワーメント」。

白井氏は2002年から2010年までの8年間、尼崎市長として在職され、2010年からは次の市長にバトンタッチされましたが、次の市長も女性が当選され、2代続けての女性市長というのは尼崎市のみということでした。

白井氏が初当選されたころは、42才の女性ということで、頼りない大丈夫か、と心配され、会合に出席してもあなたは代理か、とよく聞かれたそうです。

日本は先進国の中で女性の社会進出が圧倒的に遅れており、2011年の調査でも先進135か国中98位という低さです。今から10年前はさらに低く、初当選当時モデルとなる先輩女性首長がほとんどおらず、ある意味それが良かったと語っておられます。モデルがなかったから、全く手探りであったものの自分の思ったとおりにできたということでしょう。

尼崎市は、財政赤字をはじめ問題の多い自治体で、市長になるのは「火中の栗を拾うようなもの」でしたが、誰かがやらなければいけない仕事と考え行政改革に取り組みました。

このためには市民に大きな負担を強いることになり、理解を得るには大きな努力が必要でしたが、市長から市民に直接語りかける方法(対話)によって行政改革はおおむね成功し、財政再建の道がつけました。

このような努力のさなか、2005年に2つの大きな試練が襲います。

2005年4月、107人の命を奪ったJR福知山線の脱線事故は未曾有の大惨事でした。

こうした事故に対するマニュアルは何もない中で、市長として災害対策本部長に就任。まず出した指示は、被害者やその家族、関係者に誠実に対応すること、そして会議では物事を決めず現場の判断を第一にすること、だったそうです。救助に当たっている現場の人たちに代わり被害者家族への現状報告に赴いたとき、家族の激しい怒りを予想していたにもかかわらず、だれも怒りを口にせず、逆に「市長さんもたいへんですね」と言われた。どん底の状況にあっても人は他人を思いやることができる、人間とはなんて偉大なものなのだろうと感じたと語っておられました。そのお話を伺って、東日本大震災でも被災者が、周囲に怒りをぶちまけるのではなく、黙々と悲しみに耐えておられる姿と重ね合わせ、人間の尊さを知り心を打たれました。

そして脱線事故の2か月後、アスベストによる中皮腫の問題です。ここでも常に被害者に寄り添い、その気持ちを理解し代弁できるようがむしゃらに努力し、学ばせて頂いたということです。

次にバトンタッチする市長には更なる改革を進めてほしい、できれば同じ方向を向いた女性に市長になってほしい、と考えておられたところ、その思いに合致した現在の稲村市長に熱いエールを送っておられます。

尼崎では2代続きの女性市長の市政が続きますが、お隣の大阪では「家庭教育支援条例」なるものを提案しようとして、結局は親の反発によって撤回するという出来事がありました。乳幼児に対する親の愛情不足が自閉症や発達障害を生むという認識から、我が国の伝統的子育てに回帰すべきというのが立案者の主張のようです。しかし、これは現在の医学上の見解にも反しますし、母親は家庭に、という何十年か前の世の中への揺り戻しのように感じます。

白井氏は現在、グンゼ株式会社の社外取締役という職におられます。これも未知の分野ながらチャレンジの門を開かれました。白井氏のキャッチフレーズは「Let us begin!」ですが、これはゾンシャンにとっても同じことです。

人はいくつになってもチャレンジする気持ちを忘れてはいけなく、大いにエンパワーされた白井文氏の基調講演でした。

トリノ世界大会

河村 さと子



大阪Ⅱゾンタクラブよりトリノ世界大会に会員の丸山優子氏、内藤恵子氏、坂本千代氏、そして、私、河村さと子の4人が登録出席致しました。私は、今までハワイ、ニューヨークの2回の世界大会に参加してきましたが、今回は会長、デリゲートとして参加しましたので、代表としての責任も大いに感じた次第です。

会期中、7月7日(土)にデリゲートとモニターのトレーニングがあり、2012～2014の世界役員候補者選挙の投票の仕方及び各種議案、特に、バイローズ改正やプロキシー確認の採決に拘わる投票のための機器の操作の講習が行われました。

7月8日(日)には、オープニングセレモニーとレセプション、特に、盛大なフラッグパレードが行われました。



引き続き、7月9日(月)、10日(火)には、終日、ビジネスセッションと次期役員選挙が行われ、新役員の紹介がありました。セッション内容及び新役員リストは、改めて世界会長より各エリアディレクターに書面で紹介がありますので、ここでは紙面を割きませんが、次期会長エレクトには、デンマークのコペンハーゲンゾンタクラブのマリア・ホセ・ランディラ・リシュケさんが選ばれたことを報告しておきます。



また、相当な時間を割いて行われたバイロース等の改正についての採決は大半が可決されましたが、ゾンタクラブの案件内容によっては、否決されたものもあります。これらも後日、各自、新バイロース要項によりご確認ください。その日の夕刻よりトリノ冬期オリンピックのスケート競技が行われたアイスアリーナ会場で、ディナー付ファッションショーが開催され、冬の先取りファッションを楽しみながら、1000人近くの会員相互の親睦を深めました。

7月11日（水）、12日（木）にも各種ビジネスセッション、指名委員会及びクロージングバンケット・フェアウェルパーティが予定されておりましたが、残念ながら、私は勤務の都合上、欠席し、帰路に着きました。

コンベンション全体は、厳密なスケジュール管理と議案進行により実施されましたが、会員相互の知的なレベルの高いユーモアとウィットに富んだ会話と心遣いにより誠に心地よい雰囲気であったと思います。



初めての開会式

坂本 千代



ゾンタの世界大会に初めて参加しました。7月7日土曜日にローマ経由でトリノ到着の予定が、トリノ空港の整備と重なってしまい、ミラノに一泊して、7月8日（日）の開会式直前に電車でトリノに着きました。午後4時からの式は、会場であるリンゴット・コンベンション・センターの大講堂で行われました。2000人近くの参加者（男性もちらほら）が集まり、きれいな民族衣装を着た人もいてなかなか華やかでした。開会の挨拶のあと、フラッグ・パレードで、ゾンタクラブのある63カ国の旗が、国歌とともに加盟順に壇上に運ばれました。旗手の多くはその国の伝統的な服を身にまとい、まるでファッションショーのようでした。日本の旗も振袖を着た代表によって運ばれ、大喝采を受けました。

スピーチはすべて英語。国際会長や司会の方などは、こういう場に慣れていらっしゃるようで、非常にゆっくり・はっきりした英語を話されたので、聞き取りやすくはあったのですが、それでも英語が母国語でない者にとって、すべて英語というのはかなりつらいものだと思います。国の紹介が1度きりで、63カ国もあると、図柄も似たようなのがあって、いったいどの国の旗だかわからないこともありました。でも、壇上に置かれた国旗の列は本当に印象的でした。開会式のあと大阪Ⅱゾンタの4人は美しい民族衣装の人たちといっしょに写真を取ったり、バッジを交換したりしました。

翌日からの会議はゾンタの役員候補者の演説や選挙、執行部からの提案やそれについての激しい議論の応酬など、私にとっては驚きの連続でしたが、初めての世界大会はとてもよい経験になりました。たとえ一度でも世界大会に出席してみると、自分たちのクラブと世界とのつながりがよくわかって、今までとは別の角度から私たちの活動の意味を問い直すことができるのではないかと思ったものでした。

特別養護老人ホーム「いくとく」を訪問

芳川 た江子



平成 24 年 4 月 27 日（金）晴天のもと、私達ゾンタ奉仕委員会メンバー（笠置、牛田、辻、西村、久岡、宮本、芳川）は、河村会長と共に大阪市阿倍野区にある特別養護老人ホーム「いくとく」を訪問しました。環状線の寺田町から徒歩 10 分くらいの所にあり、お元気なお年寄りの方が多い明るい老人ホームでした。

私達は、ハンドベルと銭太鼓を演奏し、その間に河村会長のソコも入り、なかなか好評でした。ハンドベルは、5 曲（大きな古時計、小さな世界、みかんの花咲く丘、エーデルワイス、上を向いて歩こう）演奏し、銭太鼓は「花笠音頭」を演奏しました。4 月 27 日（金）の本番前に、2 回ほど宮本先生宅に集まって皆で練習しました。ハンドベルは、各パートの音色が交じりあって、何ともいえないハーモニーになりきれいでした。練習の最終日には、休会中の萩原さんも指導に来てくださり、有意義に練習ができました。銭太鼓は、私以外の方は 10 年選手のベテランの方々ばかりでしたが、私は全くの初心者で、銭太鼓の DVD を見て、さらに不安は強くなり、近くに住んでおられる辻さんに個人指導をしてもらいました。辻さんと一緒に銭太鼓の練習をしているうちに、だんだんと自信がつき、何とか本番はうまくできほっとしました。演奏前に、特別養護老人ホーム「いくとく」の昼食をごちそうになりました。薄味でローカロリーでとてもおいしく、健康によい食事だなと思いました。

特別養護老人ホーム「いくとく」は、ゾンタ I の早川さんがなさっていた社会福祉法人育徳園で、昭和 29 年に設立された歴史のある施設の様です。創設者の早川徳次翁さんの随筆集に、「人生の幸せは自分の力だけで克ちとれるものではない。知らずしらずのうちに、いろんな人や社会のお世話になって築かれていくものである。これは一つの借りである。返さなくてもすむ借りかもしれないが私は感謝して返していきたい。」という文章があります。この創設者の言葉のように、一人ひとりの人権を尊重し感謝の心をもって福祉サービスの向上をはかり信頼される施設を目指すという理念のもと、活動されているようです。

私達は、奉仕活動をすることにより、このような社会貢献をされている施設の方々や入居者の方々とふれあうことができ、社会的見聞を広めていければいいなと思います。



2012 年 春季移動例会

宝塚歌劇鑑賞

尼木 純子



2012 年 4 月 22 日（日）、ゾンタクラブの移動例会が、宝塚歌劇鑑賞と伺い、ゴルフの予定はキャンセルし、久しぶりの宝塚歌劇鑑賞に胸躍らせて待ち合わせの場所に参りました。

現在の大阪Ⅱゾンタクラブの会長河村さこ様は宝塚歌劇団の歌謡指導をなさっておられて、今回の宙組公演は 2 代スター（大空祐飛と野乃すみ花）の退団公演であるとともに 第 98 期宝塚歌劇生の初舞台のラインダンスがみられるとのことで、非常にチケットが入手しにくい状況であるのに、河村様にすばらしい席を確保していただいた例会でした。ご自身は 2 階席なのに、私達は中央 SS 席の真後ろの（実は、この席が一番鑑賞に適しています）S 席で素晴らしい公演を堪能させていただきました。

大空祐飛と野乃すみ花は流石に退団公演とあってベテランの味と熱意が感じられ、ミュージカル『華やかなりし日々』は、作&演出は本作が大劇場デビューとなる新鋭原田諒監督の作品で、とてもテンポ良く、狂騒の時代と称された 1920 年代のニューヨークを舞台に、ヨーロッパから渡ってきた移民の青年の愛と野望の軌跡をドラマティックに綴っており、貧しい移民から稀代の詐欺師となり、巨万の富を築いた男のダンディズムと哀愁を、かつて一世を風靡した「ジークフェルド・フォーリーズ」の豪華絢爛なレビューシーンを交えつつ描いていて、宝塚歌劇の素晴らしさを彷彿とさせるものがありました。

グランド・ショーの『クライマックス』は、タイトルそのままに、「最高潮」のクライマックスの連続を、これでもかこれでもかと楽しみ味あわせてくれるレビューでした。途中、河村さと子様の歌謡指導の新 98 期生の歌声が後ろで入り、それはそれは感動的で心に染み入る素晴らしい歌声でした。

本当に歌劇を見に来てよかったと、又宝塚歌劇を観たいと思った楽しい移動例会でした。

会長河村様、紙面を借りて心より御礼申し上げます。



近年阪神大震災につづいて東日本大震災が起こり、近々南海地震等が起こる確率が非常に高くなってきています。これら大きな震災を経験して、漠然と大変なことだと認識はしていますが、実際大きな災害に直面した時に具体的にどのように行動すればよいのか迷うところがあります。このたび堺市医師会として、災害マニュアルを検討し作成しましたので、一部をご紹介します。以下に説明いたします CSCATTT という概念は医師会における医療体制のあり方だけでなく、すべての施設におけるあり方にあてはまります。たとえば一般家庭としてのあり方、会社組織としてのあり方、公共団体としてのあり方、国家としてのあり方などなどです。(先の原発事故のさいの政府の対応は ××× だったとか。)

災害時における救急医療体制のあり方 (個々の施設の行動指針) CSCA TTT

＝行動を起こす前の心構えと行動規範＝

1. Command & Control 指揮命令系統の確立：各々の団体の統括責任者の決定と指揮命令の仕組みを早急に確立する。一般家庭では責任者にふさわしい者が中心となって、被災時にはどこに避難するかをあらかじめ決めておき、指導する。
2. Safety 安全の確保：自身、家族、職員、顧客の安否確認、安全確保をする。
3. Communication 通信手段の確保と情報の収集：有線回線電話、携帯電話は機能しないことを想定し、携帯ラジオやテレビ、インターネットなど複数の通信手段の確保に努める。伝言板の活用方法などを常に認識しておく。
4. Assessment 状況、情報の分析と決断：災害状況を分析して今後の行動を決めていく。

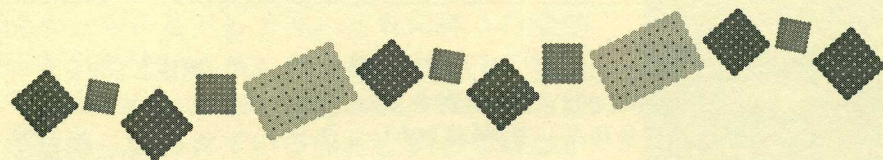
＝災害時医療救護活動の原則 (医療機関に限る)＝

5. Triage トリアージ：複数傷病者の緊急度、重症度を評価し救護治療搬送治療の優先順位を決める。
6. Treatment 応急救護や治療：重傷者は災害拠点病院に集結させる。
7. Transport 搬送：道路の破壊、渋滞に加え救急車の著しい不足が生じる可能性があるため、空路搬送や海路搬送を計画する。

＝災害に対する備え＝

1. 備蓄：医薬品、医療器材、ライフライン、防災グッズ
2. マニュアルの準備：自施設としての行動マニュアルを作成しておく。
3. 訓練：定期的に研修及び訓練を行う。

先の震災の折、日本の被災者の冷静な判断や礼儀ただし様が報道され世界中の人々に称賛されたことを覚えております。特別に教わらなくても個々の資質で危機を乗り越える力を持っていると確信はしておりますが、備えあれば憂いなし。ゾンタ会員は社会的に指導者的な立場にいますので、常に心がけておくべきことであると思われまます。まだ準備をされていない方の参考になれば幸いです。





2012年3月8日(木)午後6時より、リーガロイヤルホテルアネックス7F・イタリアンレストラン「ベラコスタ」に於いて「ゾンタ・ローズデー スペシャルチャリティーの夕べ」と題し「日本の心のふるさと 日本神話の朗読とギターファンタジー」が開催されました。第一部は、大阪Ⅱゾンタクラブが例会会場としているリーガロイヤルホテル内にある「ベラコスタ」の本格イタリアンディナーを楽しんで頂いた。第二部は「日本神話の朗読とギター」、朗読者は、当クラブのメンバーである「荻野恵美子」さん、ギター演奏者は「わたなべゆう」さんでした。

日本神話の朗読は、大変めずらしく興味津々の内に始まった。荻野さんの声のトーンと語り口は、私たちを日本古来の不思議な世界へと誘っていく。宇宙の不思議・生命の不思議。朗読にすい寄せられていった。ある本の中に「遠く連なる山々も、俺は偉いんだと決して威張ってはいない。木樵や薪木をとる人々に対しても丘や山々はみんな喜んで与えている」と言う一節があるが、古代人も又自分で、生きているのではなく生かされている・・・と直感でそう感じ取っていたようだ。そして、「あな面白」「あなたのし」「あなさやけ」と言うわが国だけが持っている素晴らしい文化が遠い昔から語り継がれ、1286年前、語りべ稗田阿礼から太安萬呂が文字で書き取ったのが『古事記』であり、その神代の巻が日本神話と言われている。わたなべさんの奏でるギターの音色が又一層宇宙のはじまり、人類のはじまりへと我々をはるかに遠い過去の世界へと誘っていった。高天原(たかまのほら)には天神(あまつかみ)・地祇(くにつかみ)・八百万神(やおよろずのかみ)が結集していると言われている。そのはじまりが、伊邪那岐尊(いざなぎのみこと)・伊邪那美尊(いざなみのみこと)の神様から国が生まれ、まず淡路島・伊予の国・四国・九州・壱岐・対馬・佐渡・大倭・本州の大八島の国が生まれたと伝えられている。右をつかさどる神様あめのみなかの神(水で浄化する)・左をつかさどる神様あまてらすおおみ神(太陽の神)・火の神・水の神誕生とされている。

学術的には約一千万年前から始まったとされるアフリカ大陸を南北に分断する大地溝帯によってサバンナが出現、そこに人類が誕生したとされているが、いつ・どこから・どうして・・・。永遠に解明出来ない不思議。でも、私達は現実に生きている・・・。何がどうしてではなく全てが与えられている事に感謝しなければならない。生かされている感謝で、他者の為に尽くす事を忘れてはならない・・・。そんな思いにかられた。

窓外の景色がすっかりネオンの光の祭典をくりひろげ、一気に現実の世界へと引き戻され現代に生まれて良かった・・・と思った。参加者66名、無事成功裡に終了した。荻野さん・わたなべさんお疲れ様でした。ありがとうございました。

「追記」

2012年7月4日(水)「ヒッグス粒子」が発見されたと言うビッグニュースが飛び込んで来た。ひょっとすると宇宙のはじまりが解明出来るかも知れないとか、少し夢とロマンが無くなるのでは・・・。何でもわかるのがいいのか悪いのか・・・。複雑な気持ちだ。



編集後記

梅雨明け直後の厳しい暑さの中、34号の編集作業にとりかかりました。電力不足が懸念される中、遠慮しながらクーラーをかけパソコンにむかいました。前号発行から半年の間にさまざまな活動をこなしてきた私たち、来年のクラブ設立20周年に向け大阪ⅡZ.C.会員各位のさらなる熱意とエネルギーでがんばりましょう！